平成 31 年度　広島県病害虫発生予察情報　技術情報第 1 号

平成 31 年 4 月 15 日（月）発表　広島県西部農業技術指導所

モモ等の幹から大量の木屑が出ていませんか？
樹を枯死させるクビアカツヤカミキリに注意

1　侵入害虫クビアカツヤカミキリ被害の特徴

加害されたモモやウメ，スモモ，アンズなどの主幹部からフラスと呼ばれる糞の混ざった木屑が大量に排出される（写真１）。他の昆虫には見られない特徴である。

写真１　大量のフラスが排出された樹（徳島県提供）

加害された樹は幹の内部を食害され（写真２），数年のうちに枯死することが多い。

この害虫が定着・蔓延すると上記の果樹生産に大きな影響が出るため，早期発見が重要である。

写真２　幼虫に加害された樹の断面（徳島県提供）

2 クビアカツヤカミキリってどんな虫？

（1）原産地

南ロシア，中国，朝鮮半島，ベトナム北部等。

（2）形態

成虫の体長は，22～38mm。体全体は，光沢のある黒色。前胸背板は明赤色で，側面に頑丈なとげ状の瘤を一対もつ。触角は，黒色で体長と同程度か，若干長い（写真３）。

（3）生態

成虫は，樹の主幹部下部に産卵する。孵化した幼虫は，すぐに樹皮下に食入する。

幼虫は，幹の内部を食害しながら２～３年かけて成長し，羽化した成虫が幹の外に脱出する。成虫の発生は，６月～８月に多くなる。

写真３　クビアカツヤカミキリ成虫（徳島県提供）

3 国内の発生状況

（1）発生状況

平成 30 年 4 月現在，栃木県，群馬県，埼玉県，東京都，愛知県，大阪府，徳島県で発生が確認されている。日本ではモモなど以外に，サクラでの被害も問題となっている。

（2）いったん定着すると・・・

他都府県で，既にクビアカツヤカミキリが侵入した地域では，加害された樹の伐採などの対策を行っているが，定着した多くの地域で根絶には至っていない。

4 被害を受けた樹の伐採

クビアカツヤカミキリに加害された樹は，内部に幼虫が残っている可能性があるため，地域外に持ち出さず，伐倒・焼却して完全に殺虫する。

5 その他

クビアカツヤカミキリは，2018 年１月に特定外来生物に指定された。飼育することや他地域への持出しは罰則の対象になる。

疑わしい虫や症状を見つけたら，次の連絡先にお知らせください。

広島県庁　農林水産局農業技術課	082-513-3559（直通）
広島県西部農業技術指導所　植物防疫チーム	082-420-9662（直通）

○病害虫発生予察情報やフェロモントラップ等でのデータは，広島県ホームページで閲覧できます。

広島県　植物防疫　検索

○お問合せ先：広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
（東広島市八本松町原 6869　　TEL：082-420-9662(直通)）